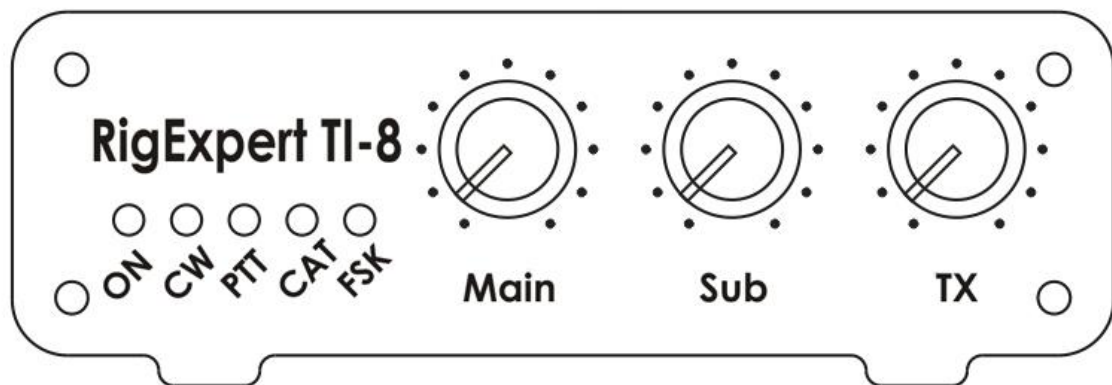


デジモード・ソフト設定例

RigExpert[®] TI-8

USB トランシーバインターフェース



取説もご熟読の上TI-8をご活用ください。

日本語版作成 : JA1SCW 日下 寛

第1版 2016.05.20

目 次

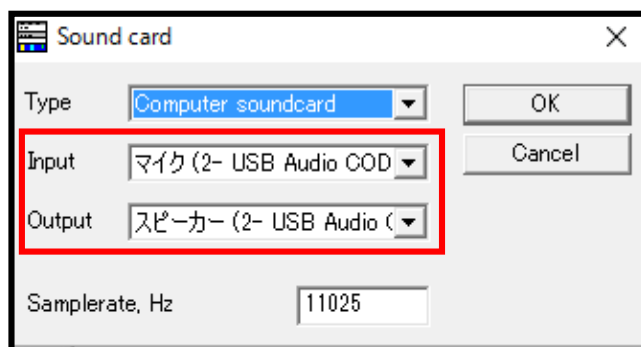
1. DigiPan.....	3
1.1 オーディオ設定.....	3
1.2 PTT 設定.....	3
2. MixW (MixW version 2.20).....	5
2.1 オーディオ設定.....	5
2.2 CAT 設定.....	5
2.3 PTT 設定.....	6
2.4.1 FSK モード.....	7
2.4.2 AFSK モード.....	8
3. MMTTY (MMTTY version 1.68A).....	10
3.1 オーディオ設定.....	10
3.2 PTT 設定.....	10
3.3.1 FSK モード.....	11
3.3.2 AFSK モード.....	12
4. MMSSTV (MMSSTV version 1.13A).....	14
4.1 オーディオ設定.....	14
4.2 PTT 設定.....	14
5. MMVARI (MMVARI version 0.45A).....	16
5.1 オーディオ設定.....	16
5.2 PTT 設定.....	16
6. Fldigi (Fldigi version 3.21.83).....	18
6.1 オーディオ設定.....	18
6.2 PTT 設定.....	18
6.3 CAT 設定.....	19
7. Ham Radio Deluxe (HRD version 6.2.3.271).....	21
7.1 CAT 設定.....	21
7.2 オーディオ設定.....	21
7.3 PTT 設定.....	22
7.4 CW 設定.....	22
7.5.1 FSK モード.....	23
7.5.2 AFSK モード.....	24
8. WinTest (WinTest version 4.8.0).....	25
8.1 CAT 設定.....	25
8.2 PTT/CW 設定.....	25
8.3 WINKEY 設定.....	27
9. WSJT-X.....	28

1. DigiPan

(DigiPan version 2.0)

1.1 オーディオ設定

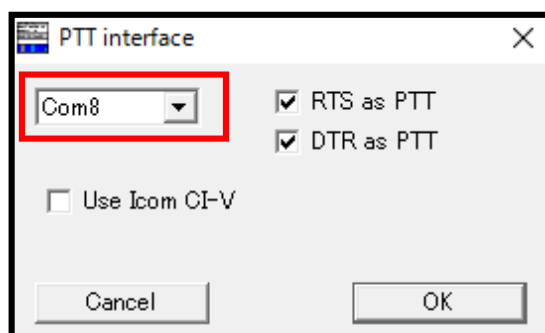
Configure ⇒ Sound card メニューより



Inputに マイク (* - USB Audio CODEC) を、Outputにスピーカー (* - USB Audio CODEC) を 選択しOK ボタンを押します。 * の数字はPCに繋がれているUSBオーディオデバイスの数によって変わります。正しい数字のデバイスを選択ください。

1.2 PTT 設定

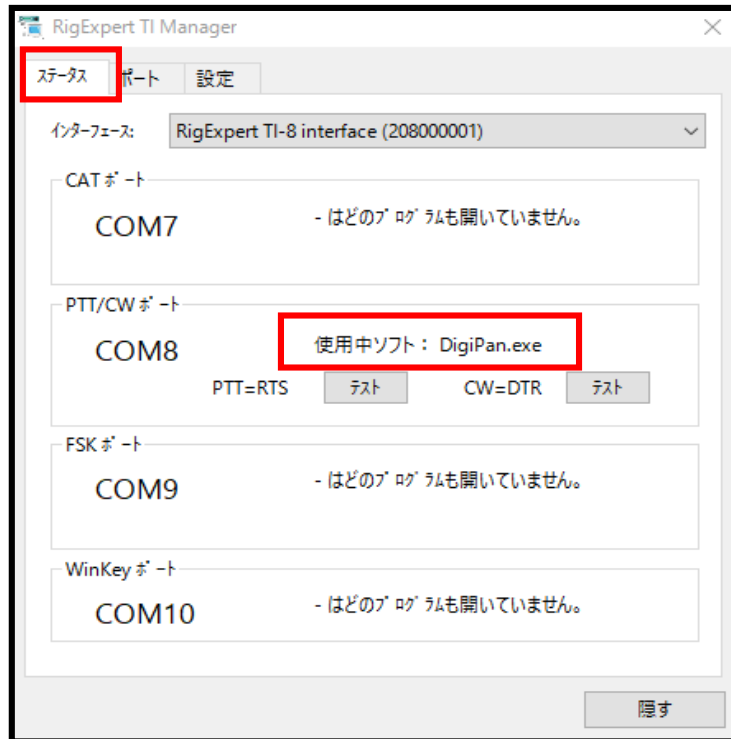
Configure ⇒ Serial port メニューより PTT 出力を設定します。



PTT出力に使うシリアル・ポート番号を選択し(この例ではCOM8)、OKボタンで設定を確定します。

TI-

8マネージャーを起動し、ステータスタブでPTT出力の設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



2. MixW (MixW version 2.20)

2.1 オーディオ設定

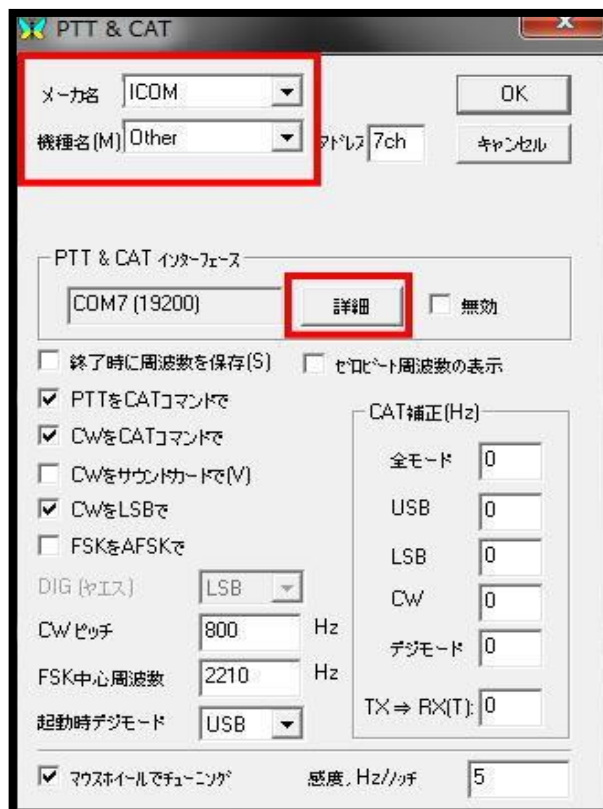
MixWをインストール・起動し個人データを入力後、メニューの動作環境設定 ⇒サウンドカード設定 を開くと次の画面になります。



この画面で入力デバイスとしてマイク (* - USB Audio CODEC) を、出力デバイスとしてスピーカー (* - USB Audio CODEC)をそれぞれ選択し、OKボタンで設定を保存する。

2.2 CAT 設定

動作環境設定 ⇒CAT/PTT設定 の画面より



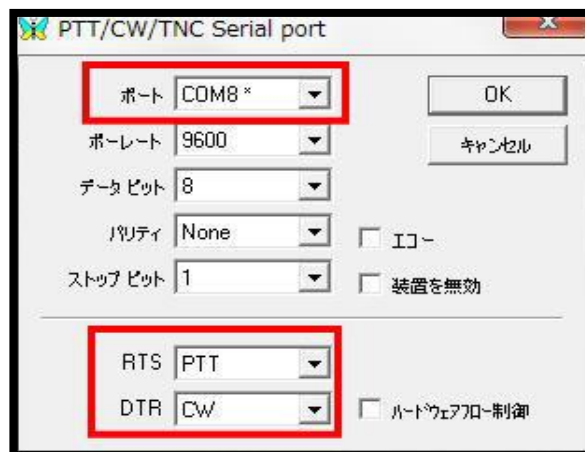
お使いのTRX情報を入力し、詳細ボタンを押すと次のシリアルポート画面が現れます。



この冊子の例では、CATポートとして **COM7** を、ボーレートはTRX側で設定した値に合せます。データビット・パリティ、ストップビットは取説に記載内容に合わせます。OKボタンで設定を保存して画面を閉じます。

2.3 PTT 設定

動作環境設定 ⇒ 第2PTTポート の画面を開く。



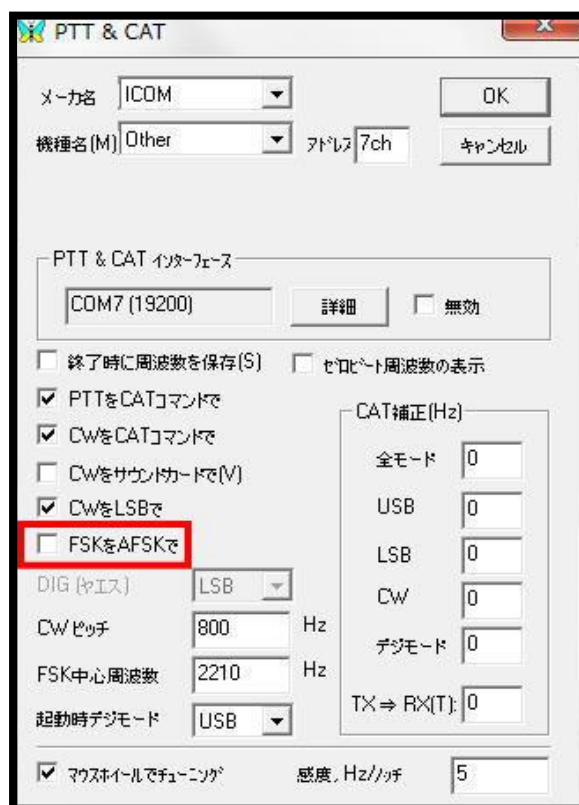
PTT と CW 出力用のシリアルポート(例ではCOM8)を設定し、RTSをPTTにそしてDTRをCWに割付けて、OKボタンで設定を保存して画面を閉じます。

2.4 FSK/AFSK 設定

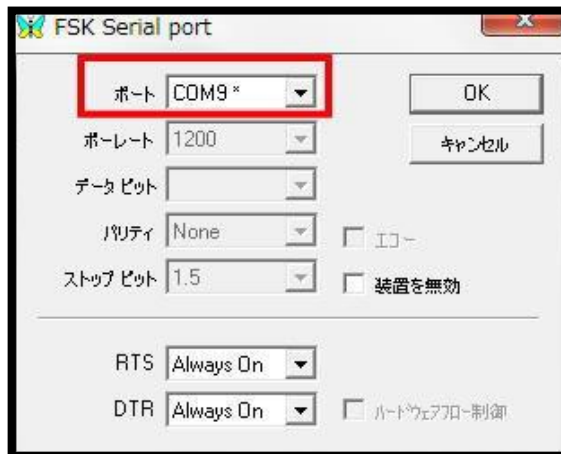
MixW の RTTYは、FSKまたはAFSK の何れのモードでも運用できます。

2.4.1 FSK モード

動作環境設定 ⇒CAT/PTT設定 の画面を開き、「FSKをAFSKで」にチェックが入っていないことを確認。

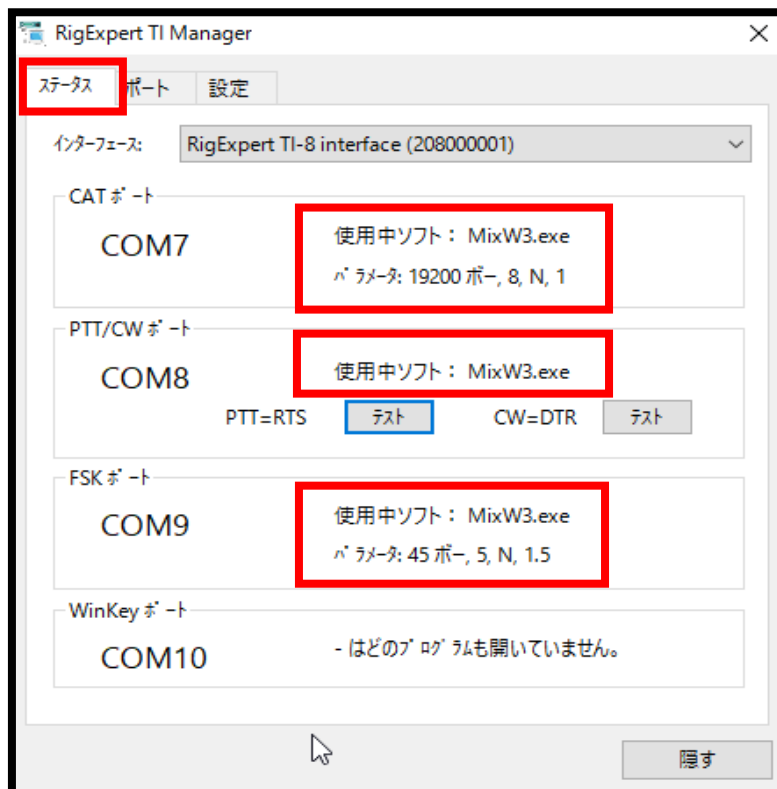


OKボタンを押して画面を閉じます。次に、動作環境設定 ⇒FSK ポート⇒ポート設定から次の画面を開く。



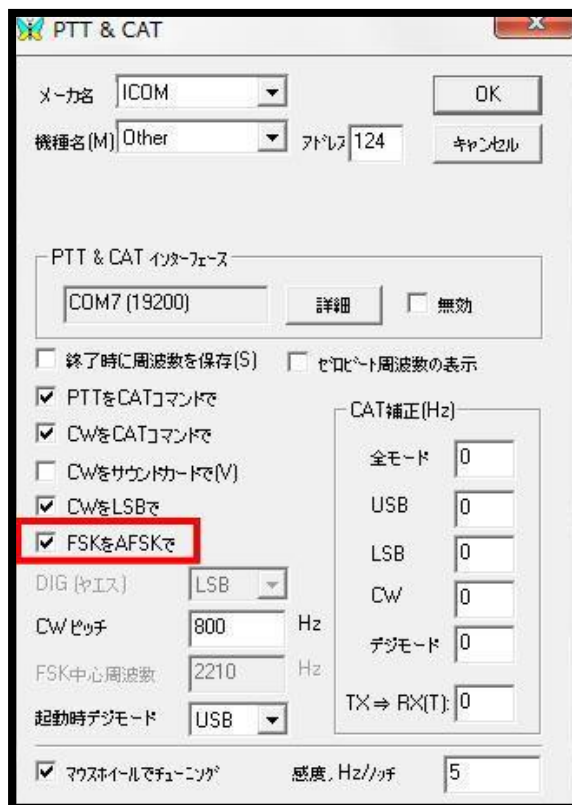
FSK用のシリアルポート(例ではCOM9)を設定し、OKボタンで設定を保存して設定画面を閉じます。

リグエキスパート・TIマネージャーを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



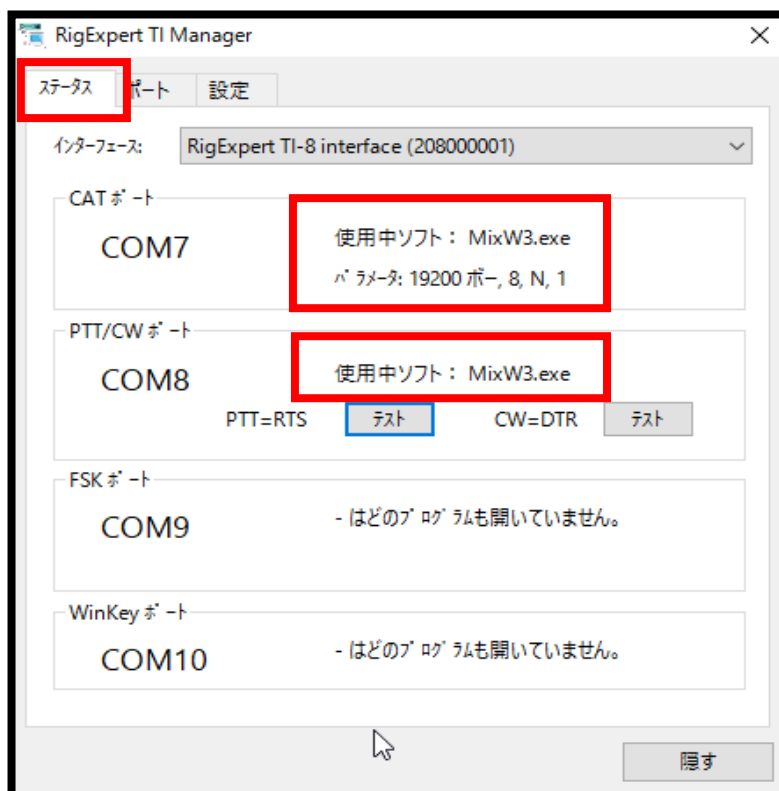
2.4.2 AFSK モード

メニューの動作環境設定 ⇒CAT/PTT設定の画面を開き、「FSKをAFSKで」にチェックを入れます。



OKボタンをして画面を閉じます。

リグエキスパート・TIManagerを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



3. MMTTY (MMTTY version 1.68A)

3.1 オーディオ設定

オプション⇒設定、画面⇒

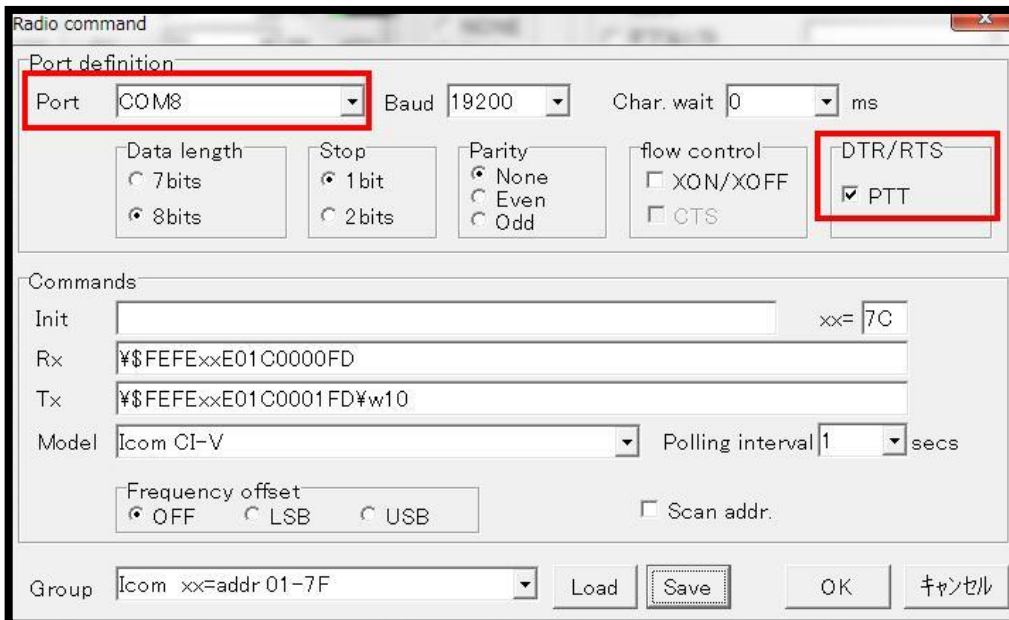
SoundCardタブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。



入出力共に“*- USB Audio CODEC”を選択します。

3.2 PTT 設定

送信タブを開き“Radio command”ボタンを押します。



PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM8)し、PTT ボックスにチェックを入れて、他はお使いのTRXに合わせて設定し、OKボタンを押して画面を閉じます。

3.3 FSK/AFSK 設定

MMTTYは RTTY をFSKまたはAFSK の何れのモードでも運用できます。

3.3.1 FSK モード

送信タブを開き、FSK ポートの設定を行います。



FSKに使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM9)し、その他のタブを開く。

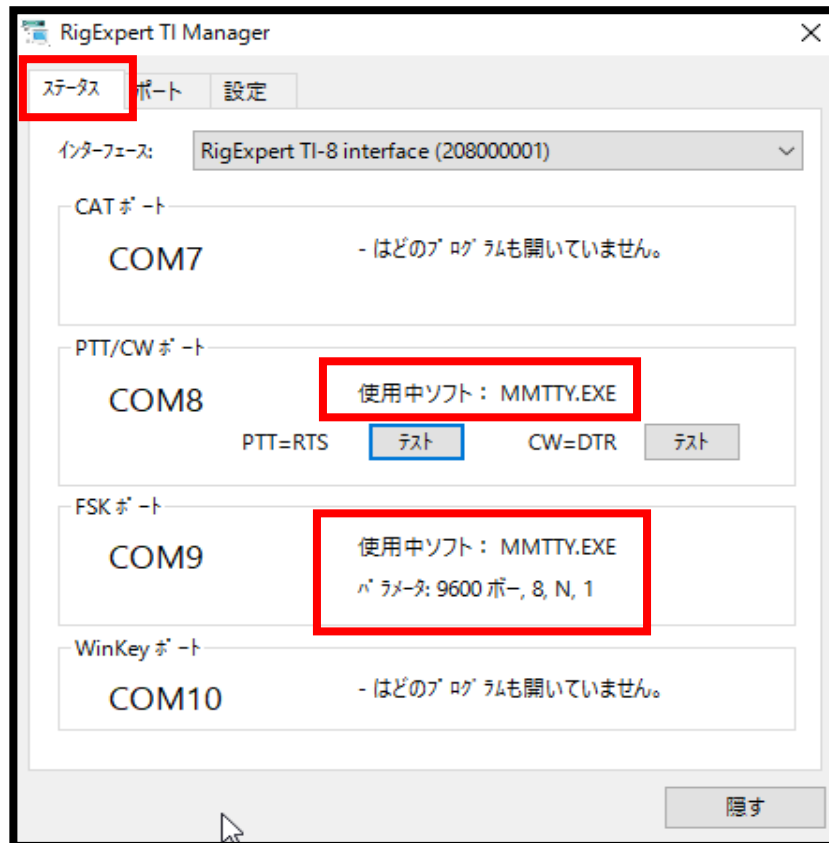


送信ポートで“COM-TxD(FSK)” を選択し、“USB Port” ボタンを押す。



“USB Port Options”で「送信速度の制限」を選択し、OKボタンで画面を閉じます。
次に“MMTTY設定画面”で、OKボタンを押して設定を有効にします。

リグエキスパート・TIマネージャーを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



3.3.2 AFSK モード

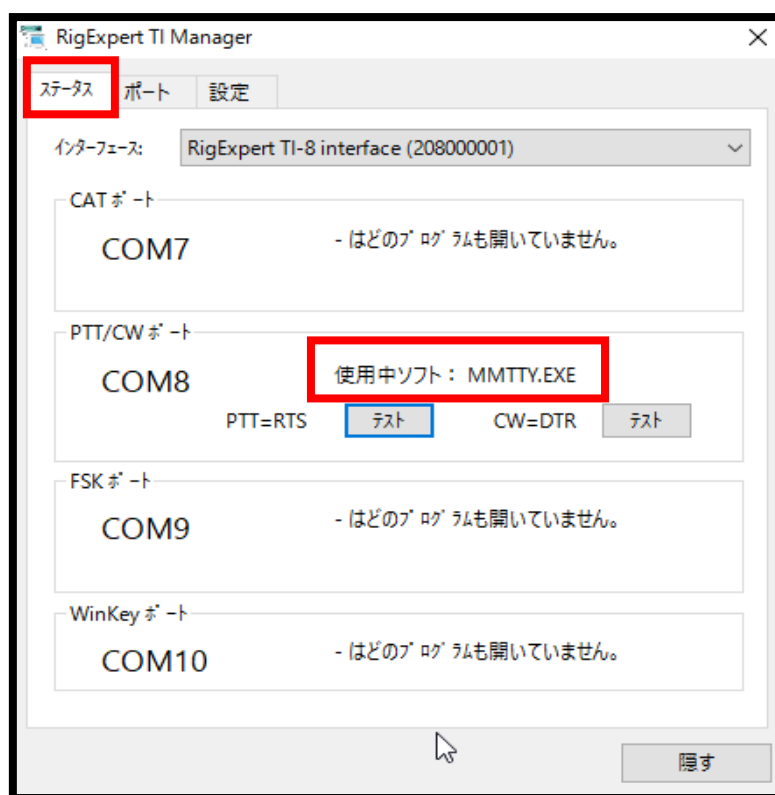
送信タブのPTT&FSKのPortに NONE 選択します。



その他のタブを開き、“送信ポート”でサウンドを選択します。



次に“MMTTY設定画面”で、OKボタンを押して設定を有効にします。
 リグエキスパート・TIマネージャーを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく
 行われているのを確認すると安心です。

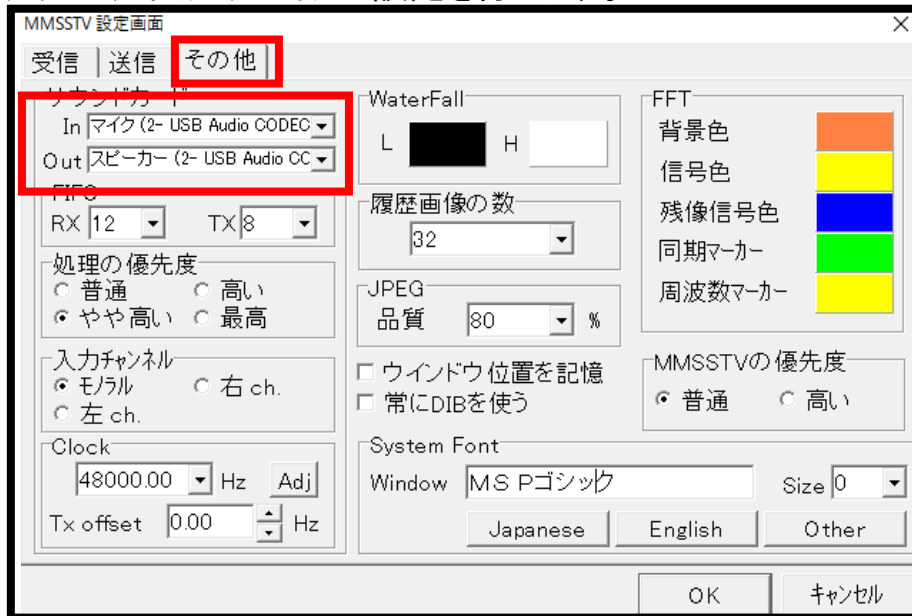


4. MMSSTV (MMSSTV version 1.13A)

4.1 オーディオ設定

オプション⇒設定,画面⇒その他

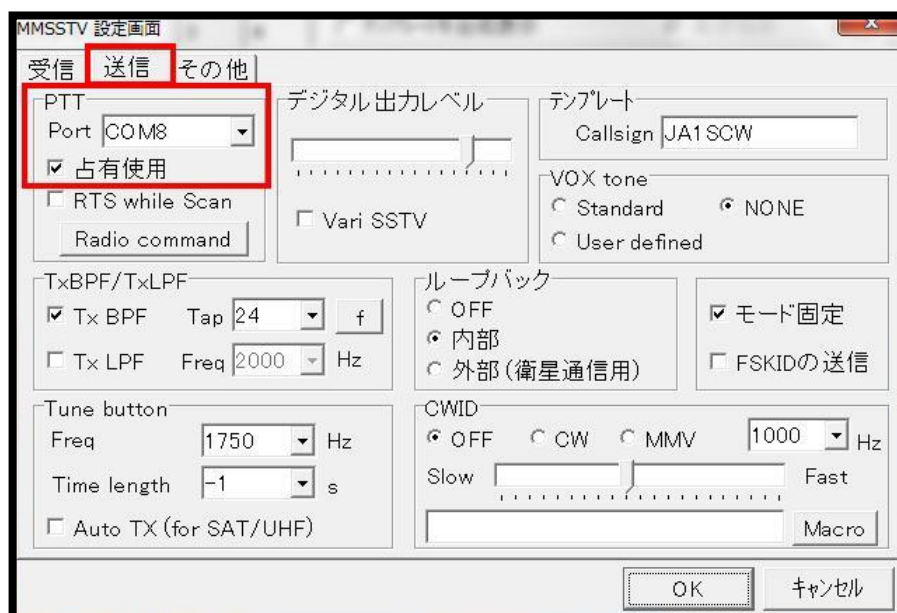
タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。



サウンドカードの入出力共に* -USB Audio CODECを選択します。

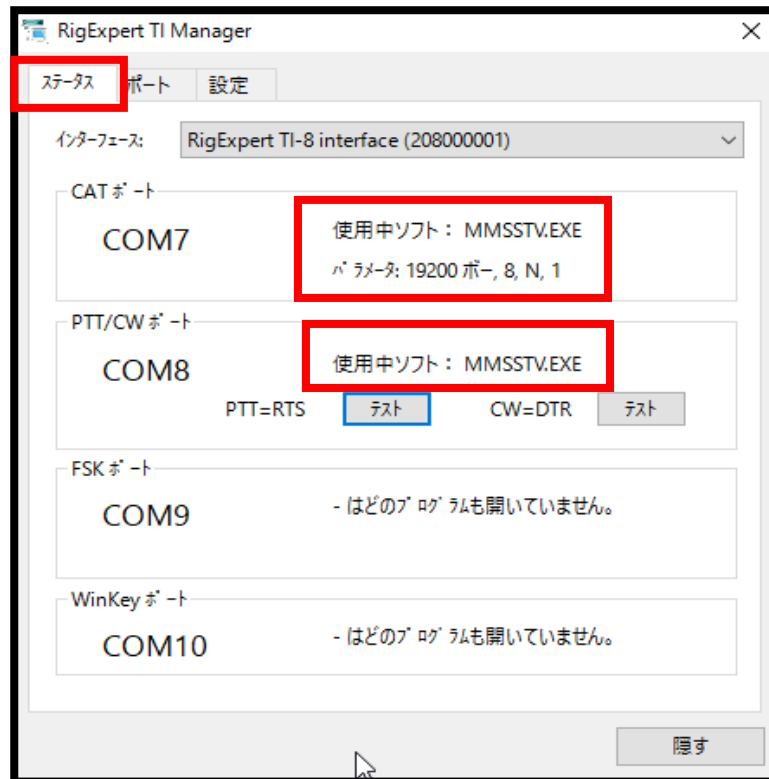
4.2 PTT 設定

送信 タブを選びます。



PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM8) し、占有使用にチェックを入れ、OKボタンを押して画面を閉じます。

リグエキスパート・TIManagerを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



5. MMVARI (MMVARI version 0.45A)

5.1 オーディオ設定

オプション⇒設定,画面⇒その他

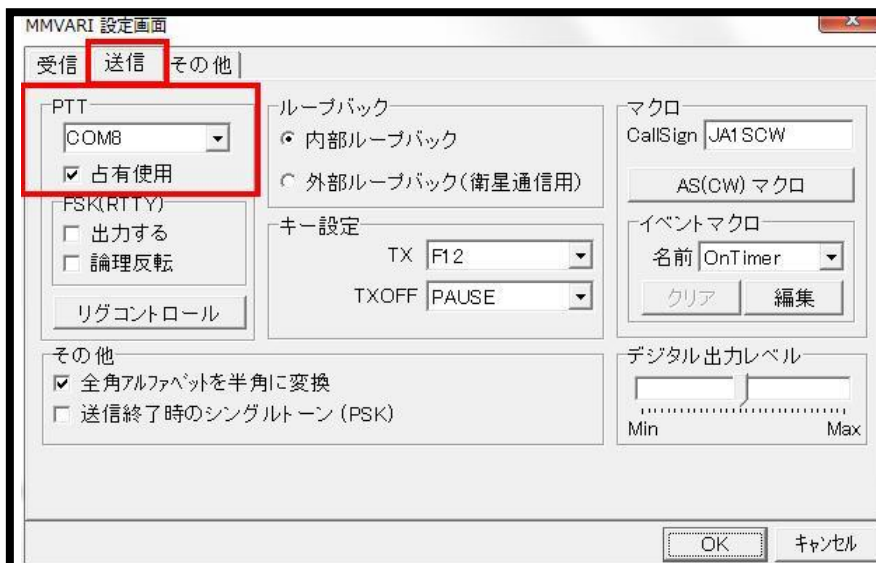
タブよりオーディオの入出力デバイスの設定を行います。



サウンドカードの入出力共に * -USB Audio CODECを選択します。

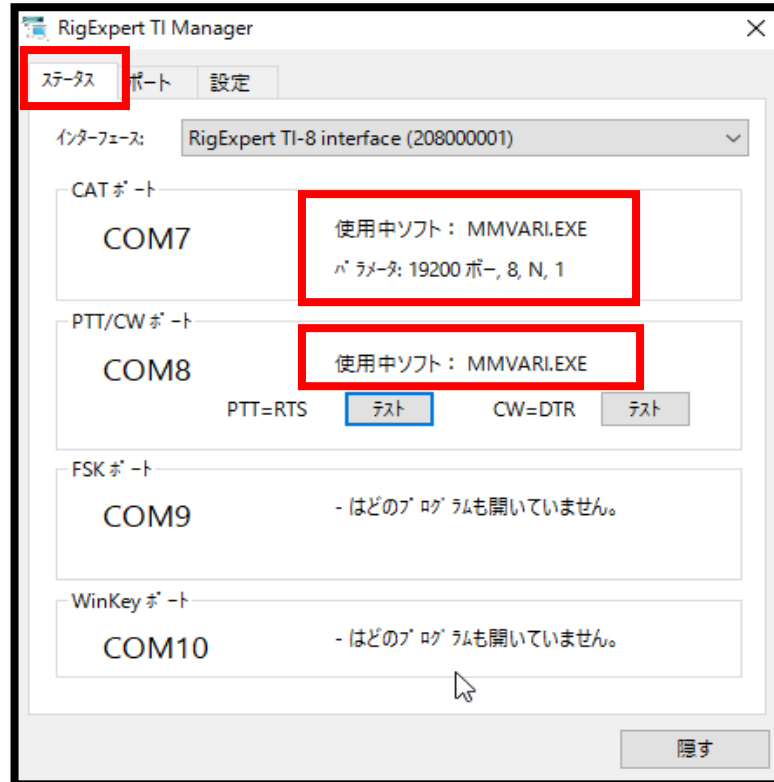
5.2 PTT 設定

送信 タブを選びます。



PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM8) し、占有使用にチェックを入れ、OKボタンを押して画面を閉じます。

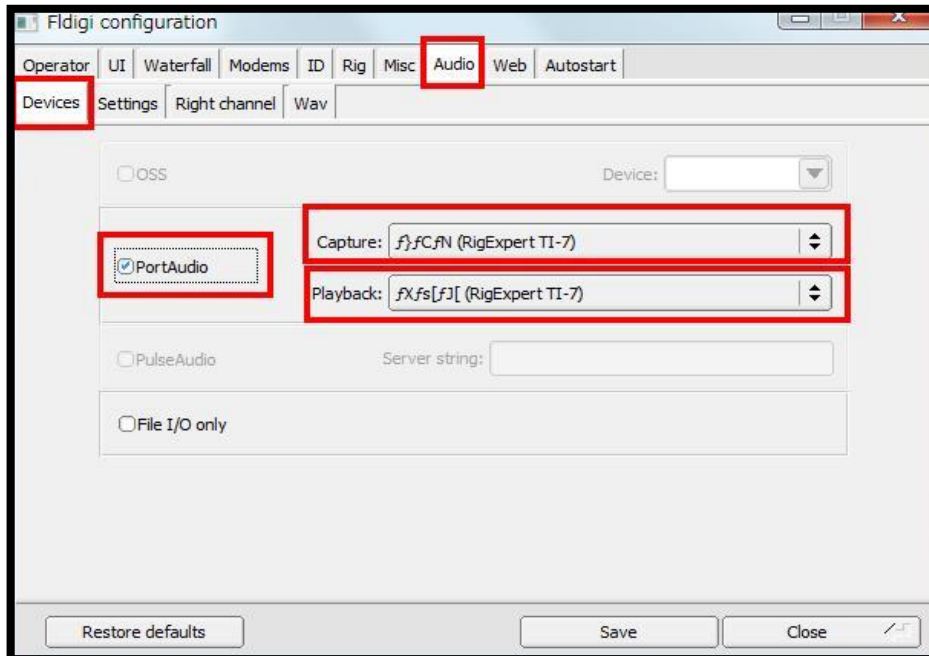
リグエキスパート・TIManagerを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



6. Fldigi (Fldigi version 3.21.83)

6.1 オーディオ設定

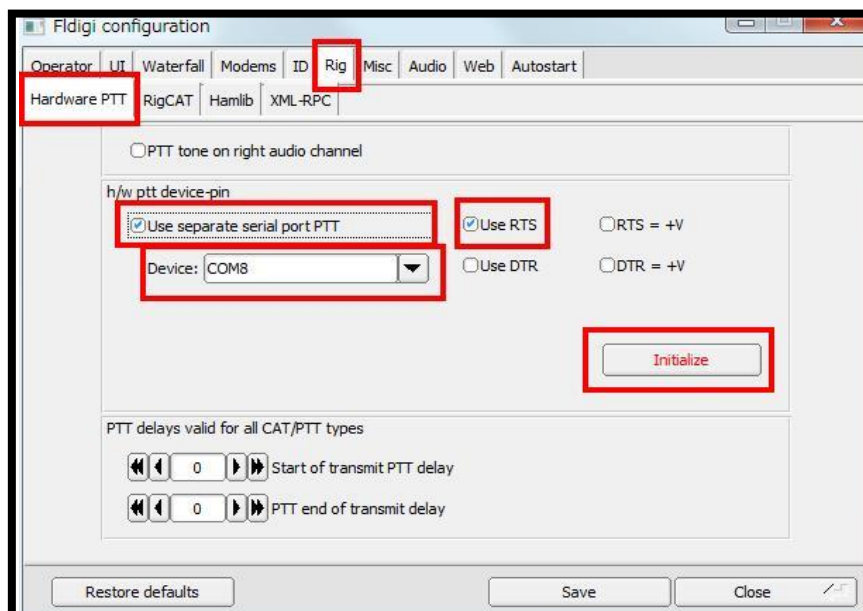
Configure ⇒ Sound Card ⇒ Audio タブから Devices タブを選択。



PortAudioにチェックを入れ、サウンドカードの入出力共に* -USB Audio CODECを選択します。日本語に未対応ソフトなのでマイクとスピーカに相当する部分が文字化けします。

6.2 PTT 設定

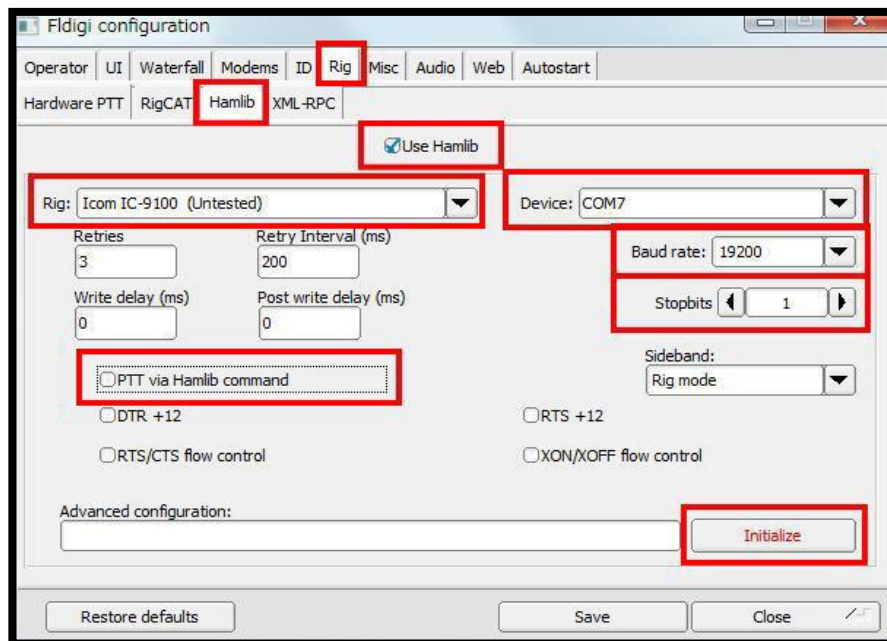
Rig タブとHardware PTT タブを選択します。



“Use separate serial port PTT” にチェックを入れ、PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM8)する。“Use RTS” にもチェックを入れInitializeボタンを押すとシリアルポートが開きます。設定を保存するには Saveボタンを押します。

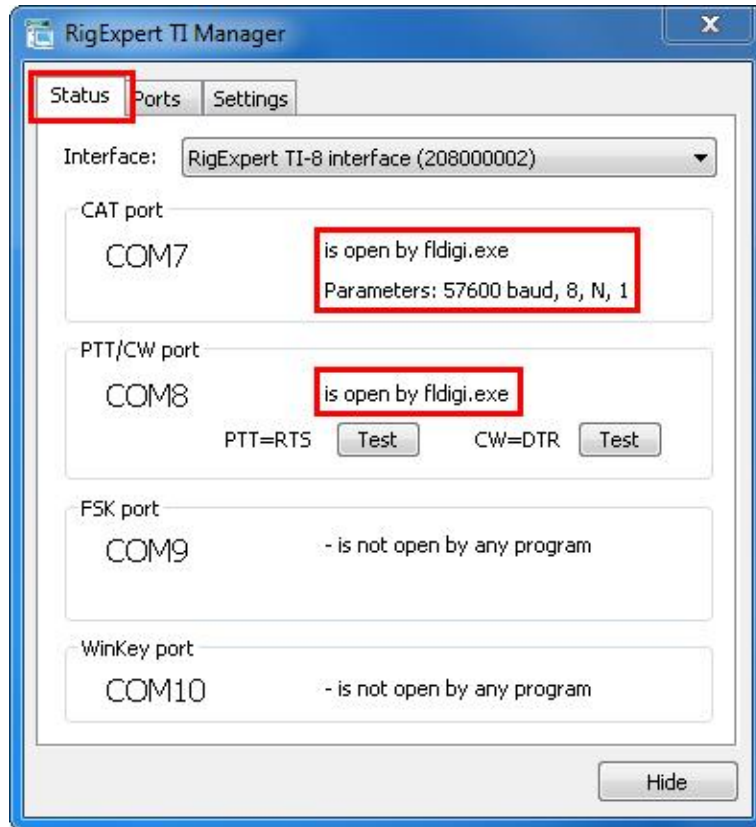
6.3 CAT 設定

Hamlib タブを選択する。



最初に“Use Hamlib”にチェックを入れ、次にお使いのTRXを選択し、“PTT via Hamlib command”のチェックを外します。CAT に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM7)し、TRX取説に記載のボーレートとストップビットを選択し、Initialize ボタンを押してCATポートを開きます。Saveボタンを押して設定を保存します。

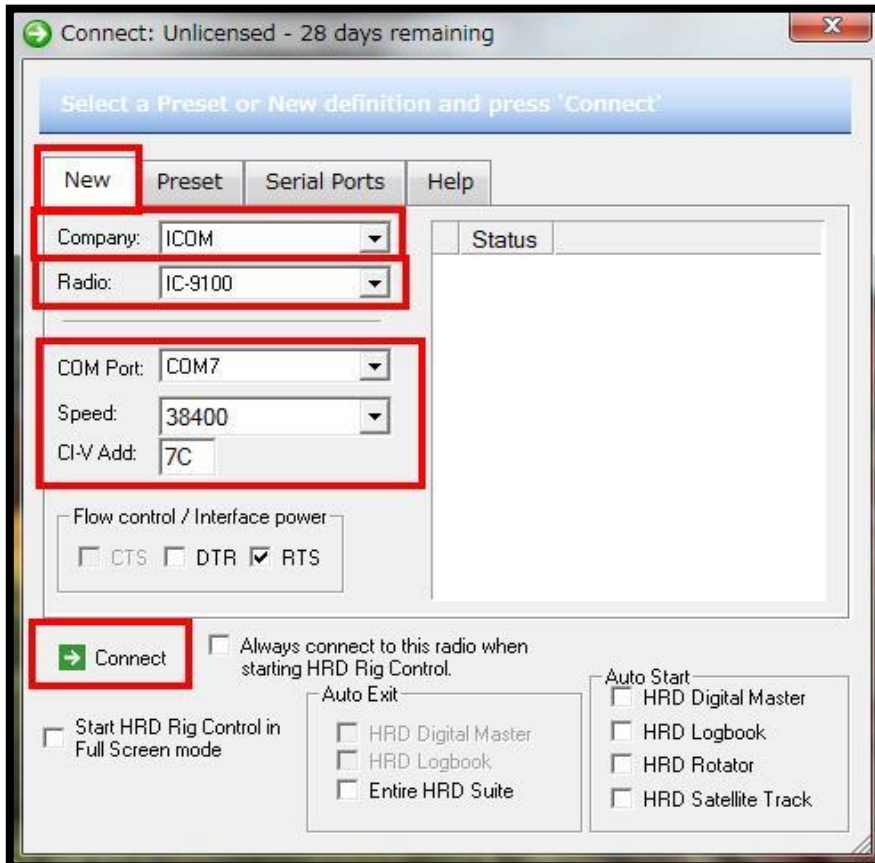
リグエキスパート・TIマネージャーを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



7. Ham Radio Deluxe (HRD version 6.2.3.271)

7.1 CAT 設定

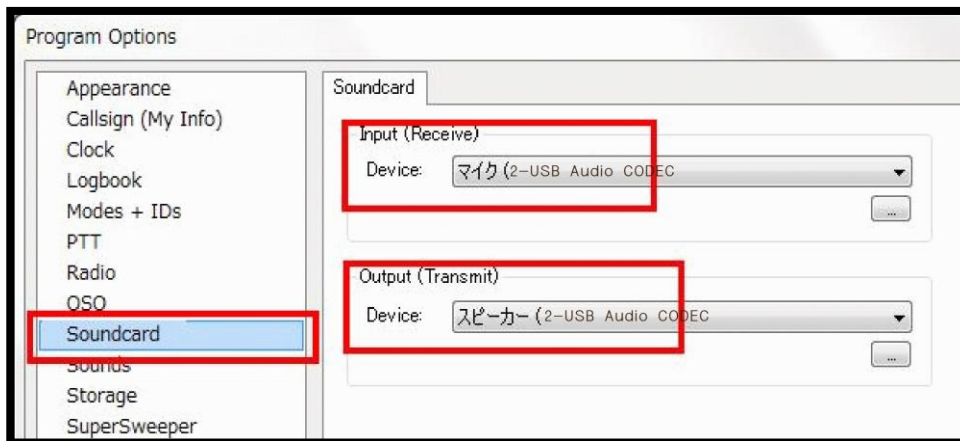
File⇒Connect menu (or press Ctrl-N).より New タブを選択する。



CAT に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM7) し、TRX取説に記載のボーレート等を選択し、Connect ボタンを押してHRD と TRXの通信を開始させます。

7.2 オーディオ設定

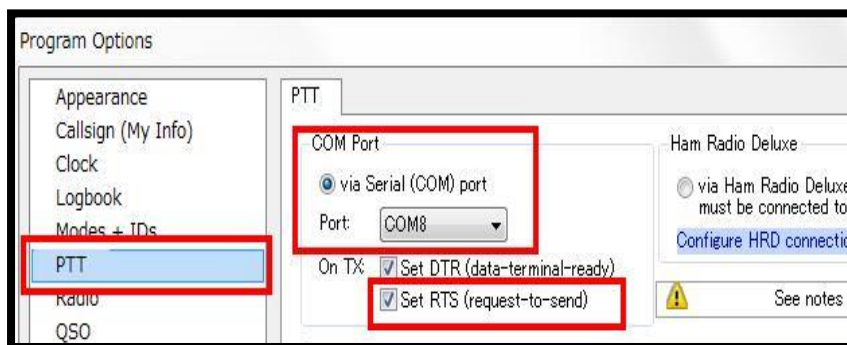
メニューよりDigital Master を起動しTools ⇒ Program options の左側リストよりSoundcard を選択します。



サウンドカードの入出力共に * -USB Audio CODECを選択します。

7.3 PTT 設定

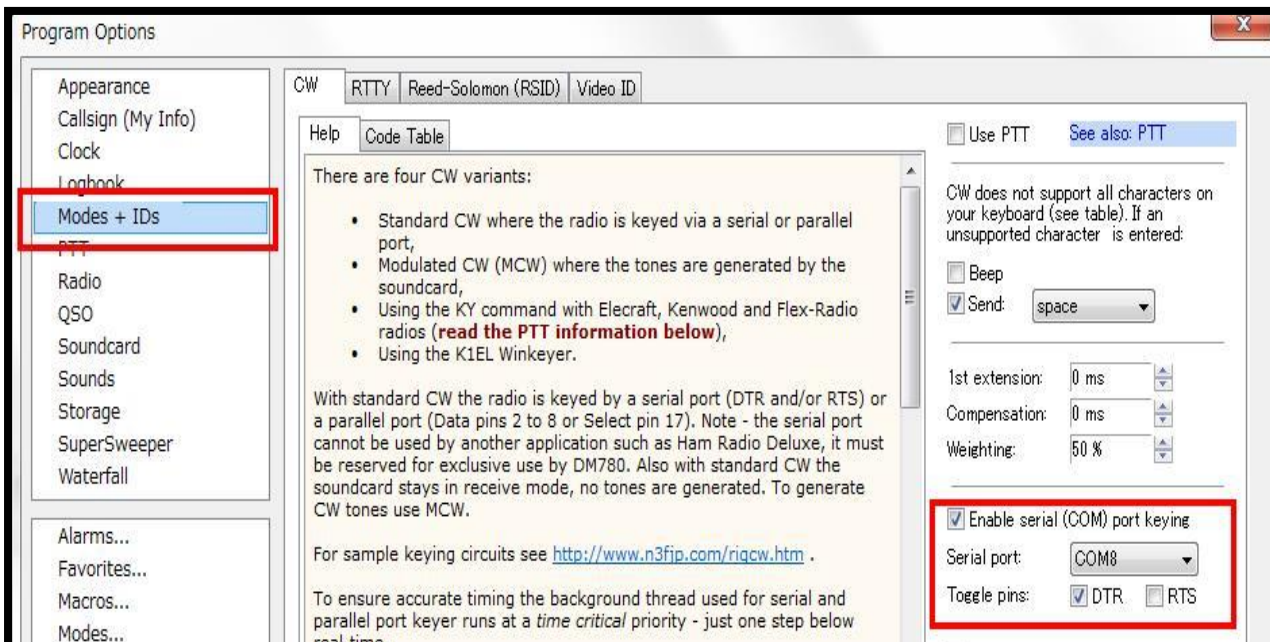
Digital Masterのメニューより、Tools ⇒ Program options の左リストよりPTTを選択します。



“via Serial (COM) port” のラジオボタンを点灯させ、PTT に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM8)する。“Set RTS (request to send)”にもチェックを入れる。

7.4 CW 設定

Digital Masterのメニューより、Tools ⇒ Program Options の左リストより“Modes + IDs”を選択します。



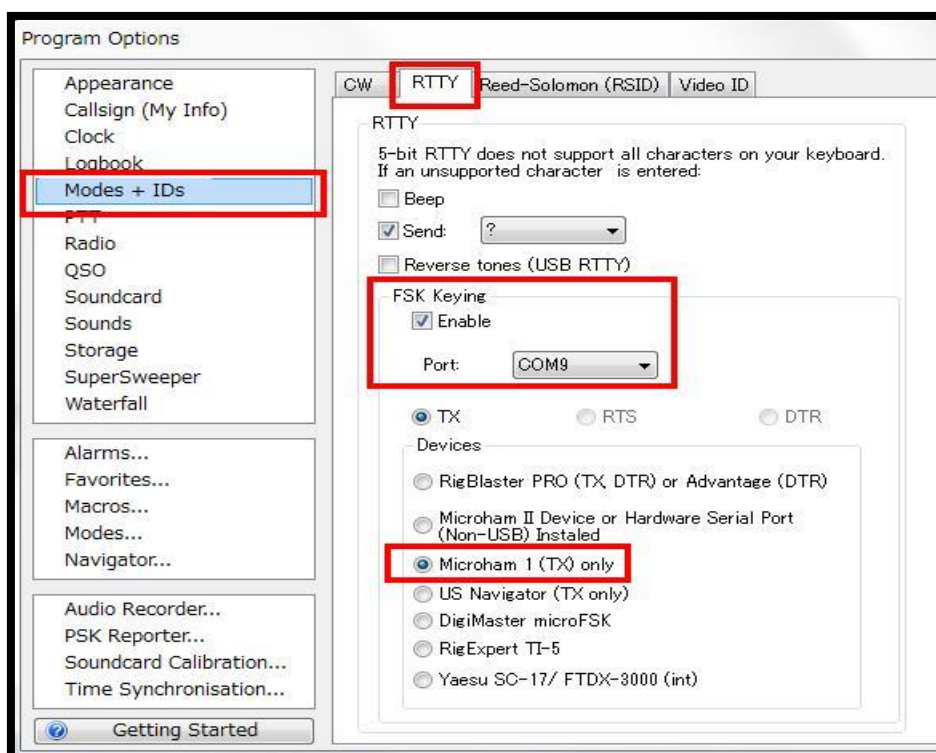
“Enable serial (COM) port keying” にチェックを入れ、CW に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM8、PTTポート同様に)し、“Toggle pins: DTR” にチェックを入れる。

7.5 FSK/AFSK 設定

Digital Masterは RTTY をFSK又はAFSK の何れのモードでも運用できます。

7.5.1 FSK モード

Digital Masterのメニューより、Tools ⇒ Program Options の左リストより“Modes + IDs”を選択し、RTTY タブを選択します。



“FSK Keying”コーナーのEnableにチェックを入れ、FSK に使うシリアル・ポートを選択 (例ではCOM9)し、“Microham 1 (TX) only” も選択する。

RTTY をFSKモードで運用するには、Digital Master の主画面で“RTTY-45 (FSK)”を選択します。

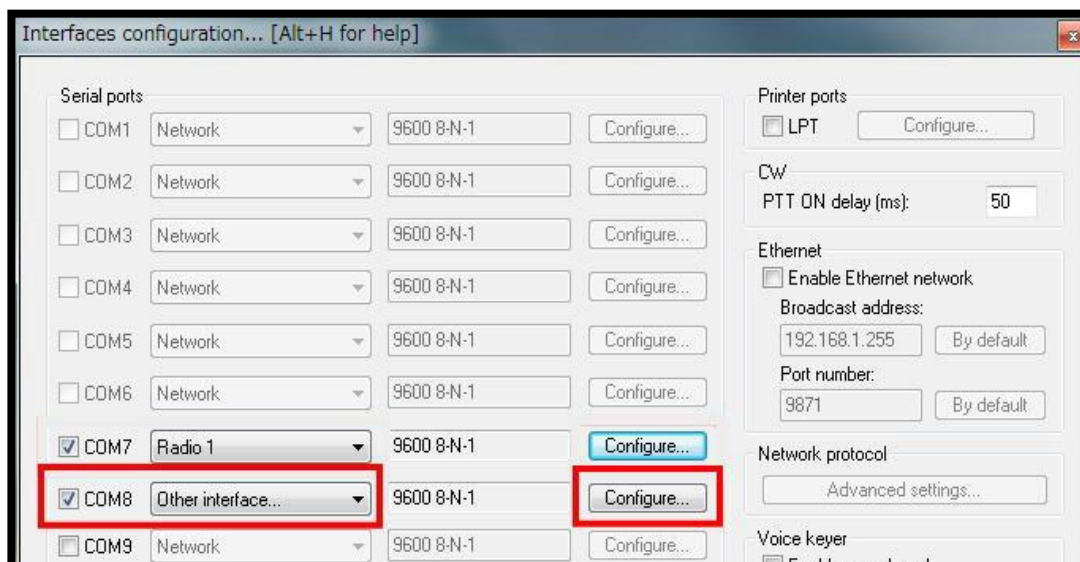
7.5.2 AFSK モード

RTTY をAFSKモードで運用するには、Digital Master の主画面で “RTTY-45 (AFSK)”、“RTTY-50” または“RTTY-75”の何れか を選択します。

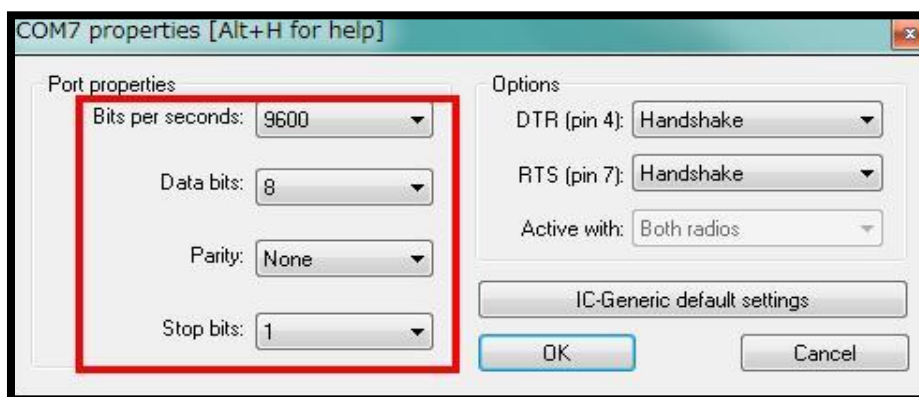
8. WinTest (WinTest version 4.8.0)

8.1 CAT 設定

WinTest のメニューから、Options ⇒ Configure interfaces を開き、



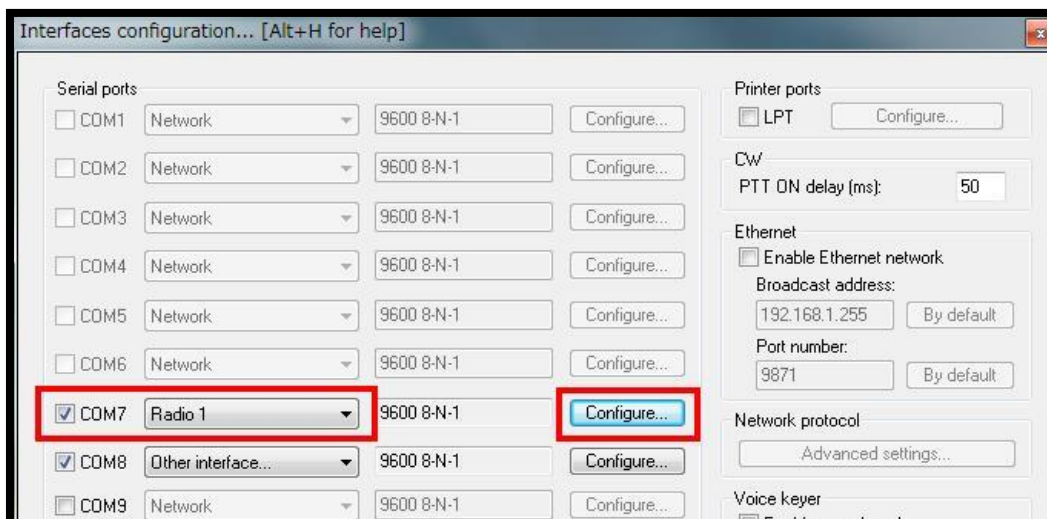
最初に画面左下の“Radio 1”にお使いのTRXを設定し、次に RigExpert TI-7 のCATポートに該当するCOM番号(例ではCOM7)にチェックを入れる。“Radio 1”を選択し、“Configure”ボタンを押す。



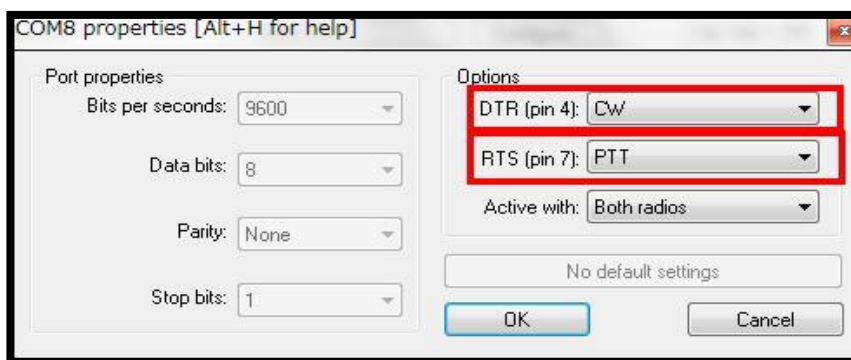
ボーレート他の項目は、TRXの取説に記載の値を引用しOKボタンを押します。

8.2 PTT/CW 設定

WinTest のメニューから、Options ⇒ Configure interfaces を開き、



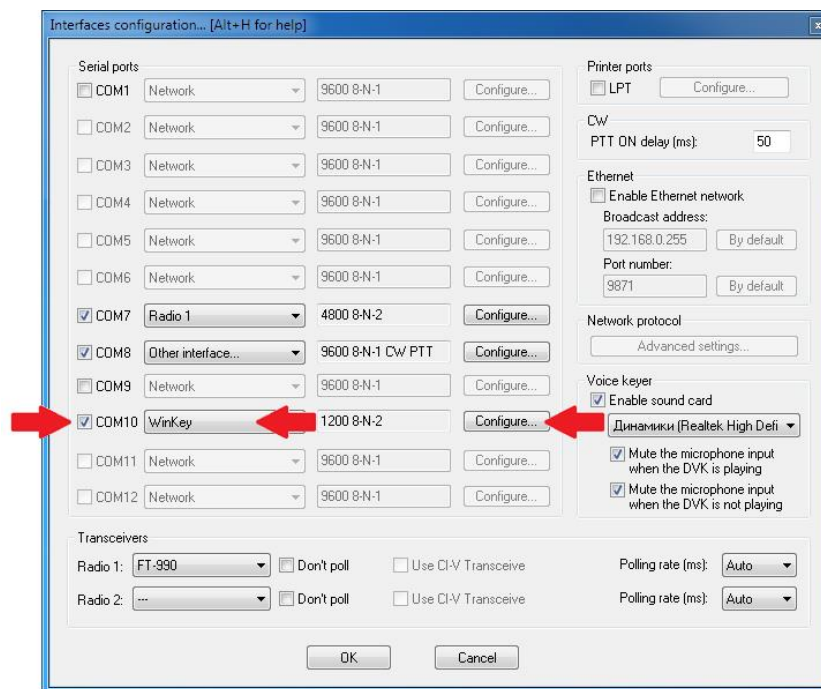
RigExpert TI-8 のPTT/CW ポートに該当するCOM番号(例ではCOM8)にチェックを入れ、“Other interface”を選択し “Configure”ボタンを押す。



Options コーナーで “DTR (pin 4)” をCW に、“RTS (pin 7)”をPTT に割付、OKボタンを押す。リグエキスパート・TIマネージャーを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。

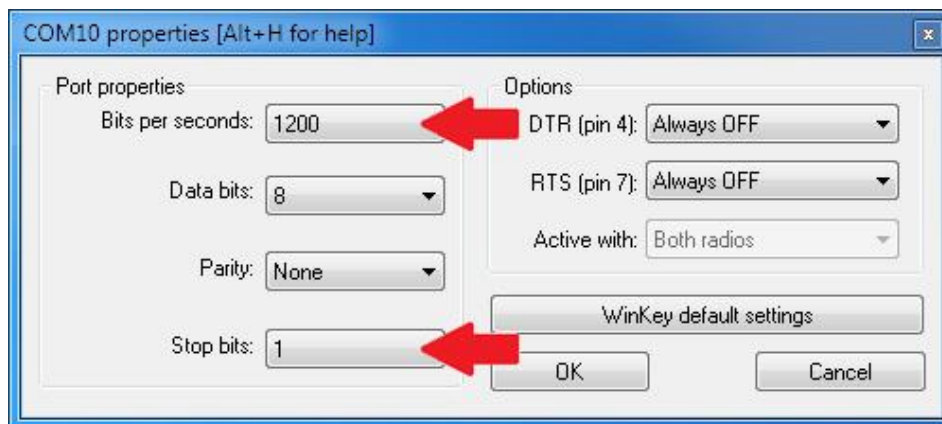
8.3 WINKEY 設定

WinTest のメニューから、Options ⇒ Configure interfaces を開き、



リグエキスパートTI-

8のWinKeyポート(例ではCOM10)をチェックしWinKeyを設定する。そして“Configure”をクリックします。



TRXの取説を参照しボーレートとストップビットの数値を設定します。

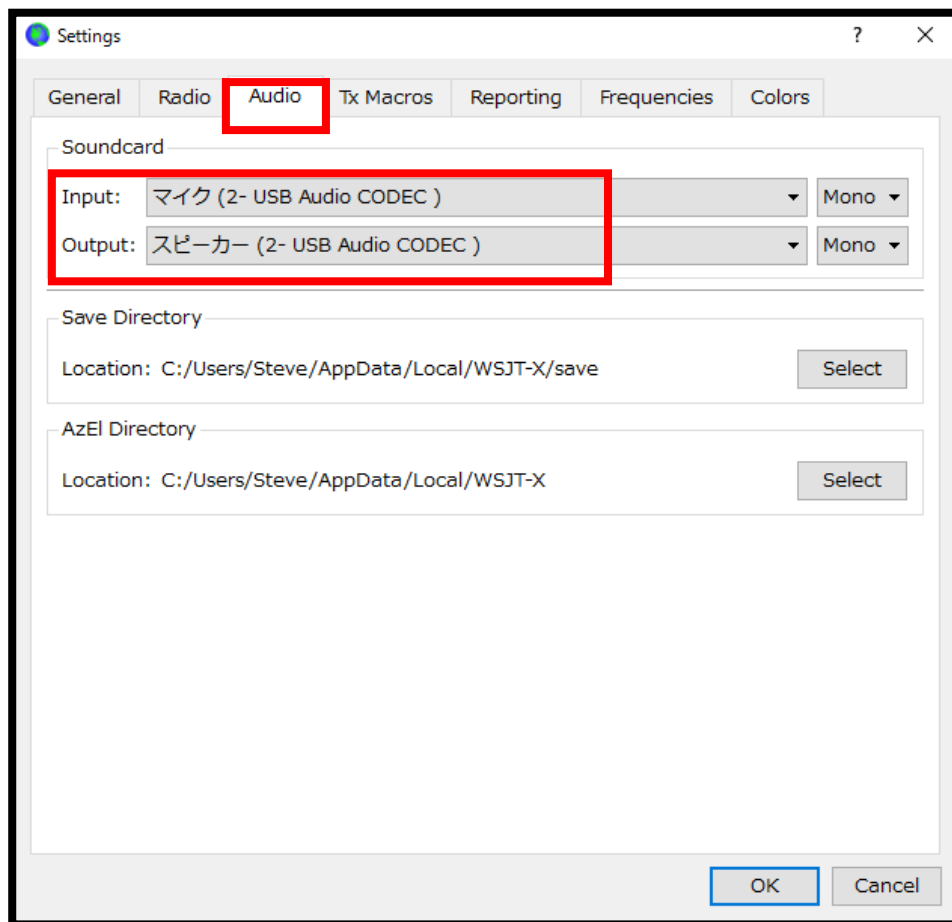
9. WSJT-X

(WSJT-X version 1.6.0)

9.1 オーディオ設定

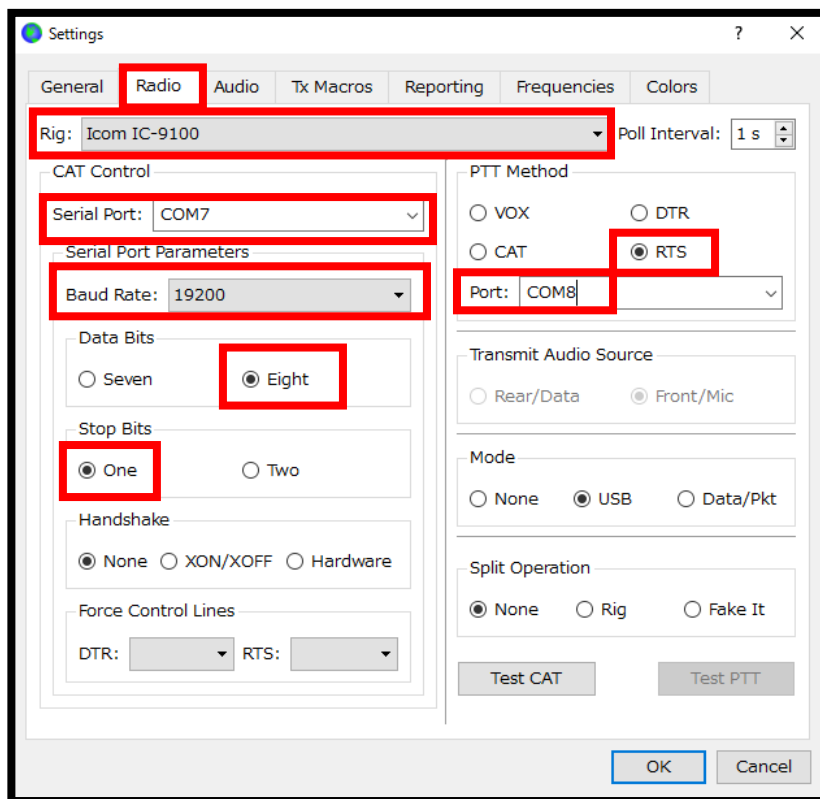
WSJT-

Xを起動し個人データを設定して、File - Settings - AudioタブでSoundcardのInput/Output共にTI-8のサウンドデバイスを選択します。



9.2 CAT設定

File — Settings — Radioタブより



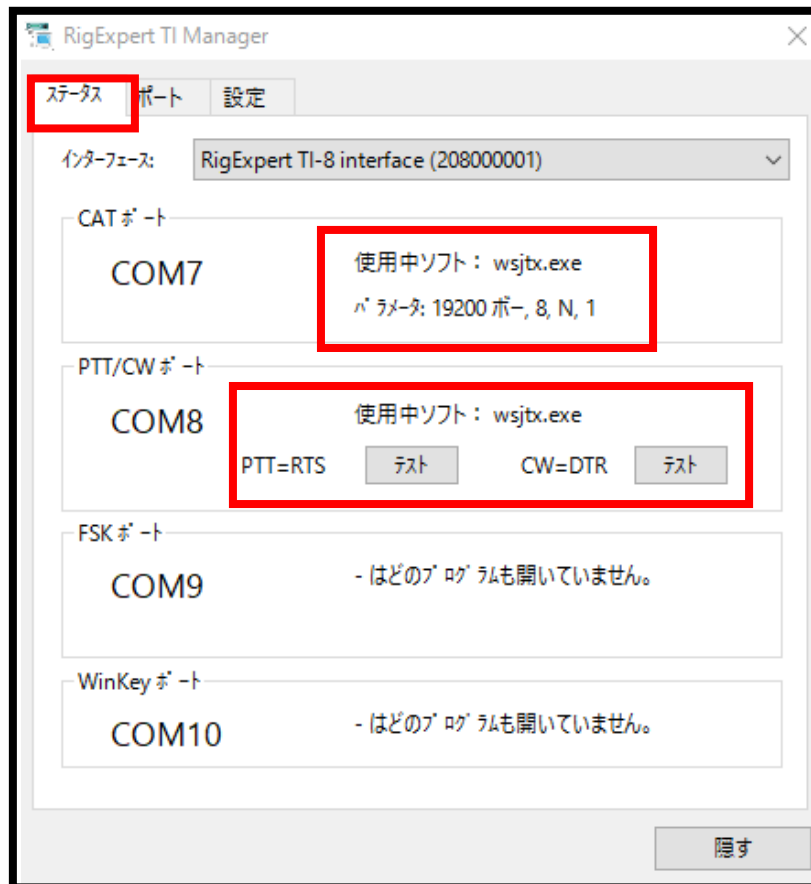
TRX名、CAT用のポート番号(例ではCOM7)、ボーレート、ストップビット数をお使いのTRXの取説を参照に設定します。OKボタンで設定窓を閉じます。注) TRXによってはSplit Operationが正常に動作しない可能性があります。

9.3 PTT設定

File — Settings — Radioタブ(上図)より

TI-8でPTT/CWポートに設定したポート番号(例ではCOM8)を選択しOKボタンを押して設定を閉じる。

リグエキスパート・TIMネージャーを起動し、ステータスタブで各COMポートの設定が正しく行われているのを確認すると安心です。



Copyright © 2016 Rig Expert Ukraine Ltd.

<http://www.rigexpert.com>

RigExpert is a registered trademark of Rig Expert Ukraine Ltd.

RigExpert TI-8 USB Transceiver Interface
is made in Ukraine.



翻訳・作成・印刷
JA1SCW 日下 寛

20-May-2016